平成18年度 京都府立海洋高等学校 推薦入学実施要項

1　趣旨

本校の教育内容に対する興味・関心を有し、学習意欲が旺盛で進路に対する目的意識が明確な生徒を入学させ、その生徒が自己の能力や個性をより一層伸ばすとともに、学習効果を高めることをねらいとする。

2　対象学科

海洋学科群（海洋科学科，海洋工学科，海洋資源科）

3　募集人員

募集定員の50%程度

4　出願資格

平成18年３月に中学校を卒業する見込みの者で、保護者の住所が推薦入学願書提出時において府の区域内にあるもののうち、次の条件を満たし在学中学校長の推薦を得たもの

(1)　積極的な学習意欲があり、将来の進路についての目的意識が明確であること。

(2)　本校の教育内容に対する興味・関心を有すること。

(3)　中学校長からの報告書の各記録が良好であること。

5　出願の要領

(1)　他の公立高等学校の推薦入学、特色選抜及び適性検査との併願はできない。

(2)　提出書類

ｱ 推薦入学願書　ｲ 写真票　ｳ 報告書（様式Ｃの１）　ｴ 推薦書　ｵ 推薦入学について

6　推薦入学に関する日程

(1)　推薦入学願書受付

平成18年２月２日（木）及び３日（金）両日とも午前９時から午後４時まで

（ただし、やむを得ない理由により郵送する場合は、平成18年１月29日（日）から１月31日（火）までの消印のあるものに限り有効とする。また、郵送する場合は、電話で志願先学校長に、志願者氏名、志願課程・学科その他必要な事項を連絡の上、推薦入学受検票等の返信用として、あて先を記入し書留速達送付分の切手をはった封筒を同封し、書留速達により提出すること。）

(2)　面接等実施日

平成18年２月15日（水）

集合時刻・場所等必要事項は別途指示する。

(3)　推薦入学合格内定通知日

平成18年２月20日（月）

(4)　合格者の発表

平成18年３月16日（木）

7　願書等提出先

〒626-0074　京都府宮津市字上司1567-1　　京都府立海洋高等学校

TEL　0772-25-0331

8　入学者の選抜

(1)　志願者全員に対して、面接と作文（30分）及び国語・数学・英語の学習状況診断テスト（それぞれ25分）（以下「面接等」という。）を実施する。

(2)　入学者の選抜は、報告書・推薦書・面接等の結果を資料として行い、合格内定者を決定する。

9　合格内定者の通知

合格内定者に対し、在学中学校長を経由して合格内定通知書を交付する。

10　合格内定とならなかった場合

合格内定とならなかった者は、平成18年度京都府公立高等学校入学者選抜要項により、改めて志願することができる。

11　その他

(1)　本要項に定めのないこと、その他詳細については「平成18年度京都府公立高等学校入学者選抜要項」に定めるところによるものとする。

(2)　疾病等の理由で「潜水不可」と診断された場合には、科目「ダイビング」の実習を行うことはできないので、潜水(ダイビング)の学習を希望して出願する場合は、別紙「医学的な観点からの潜水に係る資料等」を参考にすること。（科目「ダイビング」は、海洋工学科海洋技術コースのみで履修する。）

（別紙）

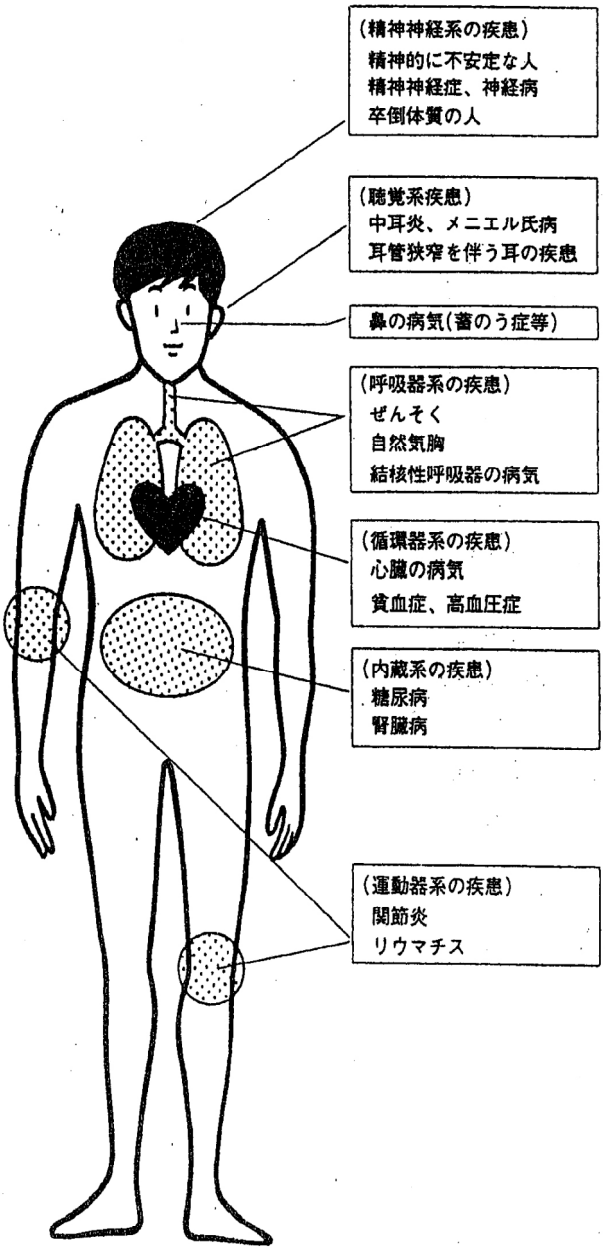
医学的な観点からの潜水に係る資料等

「ＭＴＥＳ　Ｄ．Ｄ」
１スターダイバーマニュアルからの抜粋
発行者（エムテス・ダイビング・ディビジョン）

１　ダイビングに必要な健康状態と条件

（１）第一条件は、健康な身体と健全な精神をもっていること。特に水圧に敏感に反応する耳は、水深わずか０．５～１ｍで痛みを感じる。耳の痛みを取り去るために「耳ぬき」をする。耳に疾患があるとこれができないし、症状が悪化する。そのままの状態で無理に潜ると鼓膜を破ったり内耳を痛めたりする。従って、過去に中耳炎、内耳炎にかかったことのある人等も注意が必要である。

ダイビングに不適格な病気や症状は、①精神的に不安定な人、うつ病、卒倒体質の人　②耳の病気（聴覚系疾患）　③鼻の病気（蓄膿症等）　④ぜんそく、自然気胸、結核性呼吸器の病気（呼吸器系の疾患）　⑤心臓の病気（循環器系の疾患）　⑥糖尿病、腎臓病（内臓系の疾患）　⑦その他、閉所恐怖症、高低血圧症・強度なアレルギー症などで、これらの症状をもつ人は健康な身体にもどす事が先決である。



※　注｛項目説明｝

②③について

鼓膜に穿孔がある人や耳や喉をつなぐ管（欧氏管）に閉塞や狭搾がある人は圧力の平衡をとることができない。また、中耳炎や副鼻腔炎、風邪にかかっている人、また、鼻の奥の副鼻腔にウミがたまる蓄膿症の人も、圧平衡がとれない。

このような人は、それぞれの原因が解消されるまでダイビングはできない。

④について

気管支ぜんそくや肺炎にかかっているときは、完治後でも気管や肺に傷痕が残り、弱

い部分ができていることがある。この部分は、圧力の急激な変化に対応できないことがある。また、自然気胸の病歴のある人も、潜水中の圧力の変化に肺が対応できない場合が考えられる。

⑤について

心臓に疾患のある人、その前兆のある人、狭心症、不整脈、その他激しい運動に耐えられないと思われる心疾患をもつ人は、完治するまでダイビングに限らず総ての運動を行ってはいけない。

①⑥について

瞬間的に気が遠くなったり意識不明になることが、水中では取り返しのつかない事故につながります。このため、気質的神経障害、卒倒体質、手当を怠っている糖尿病患者などはダイビングをしてはいけない。

○その他

薬品の使用については、服用した薬品が水中でとのような作用をもたらすか、詳しいことは分かっていないが、アルコール依存症の人、睡眠薬や麻薬などの常用者はもちろん、その他どのようなものであれ薬品を服用してのダイビングは避けるべきである。

2　スキン・ダイビングの生理等について

（1）ダイビングに関係のある空間(身体の腔洞)

①副鼻腔　②中耳腔　③気管　④胸腔

⑤肺　⑥胃　⑦腸

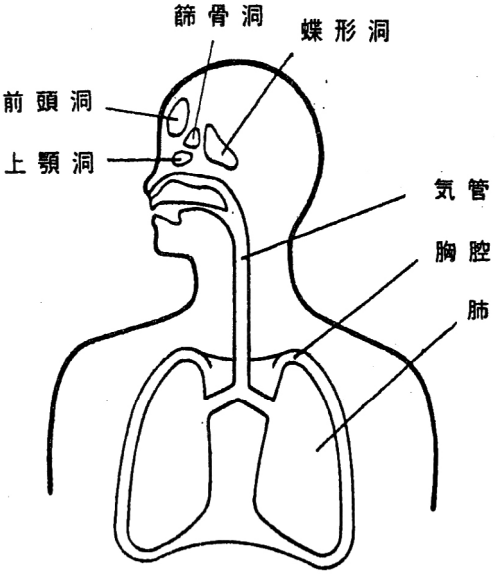
（2）鼻血、めまい、頭痛の人は、一度専門の耳鼻科に行って診察を受ける必要がある。

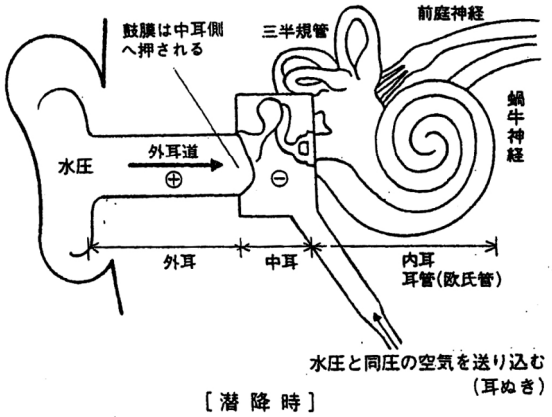
（3）耳が聞こえにくい人(鼻が詰まっている人)

耳ぬきができていないとき、中耳腔スクイーズがおこる。スクイーズが起きた空間、つまり中耳腔の容積を体液で埋めようとする働きを身体が自然に行っている為にこのような症状が起こる。耳に痛みがなければそのままでよい。耳が聞こえにくく、痛みが続くようなら耳鼻科で診察を受けること。

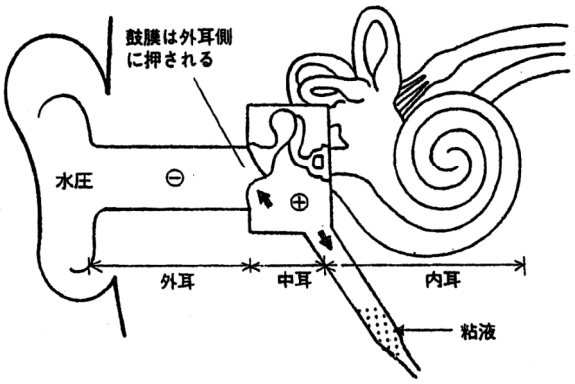
スクイーズとは、圧力で空間が押しつぶされることで締め付けによる障害を示す。肺の

<身体の腔洞>





［潜降時］



［浮上時］

スクイーズ、胃・腸のスクイーズ、副鼻腔のスクイーズ、歯のスクイーズなど。

（４）耳ぬきとは、耳管を通して中耳側にも外圧と平衡する空気を送り込むこと。

（５）リバースブロックとは、風邪により耳管に炎症を起こしていたり、中耳腔内の粘膜性の膜が耳管の入り口をふさいでしまったりすると、中耳腔内の空気が逃げられなくなり、痛みを感じる。この状態を言う。

（６）肺活量、特に「残気量」とは、はき出そうとしてもどうしても残ってしまう空気量（約１，３００ｃｃ程度)、つまり全肺活量と肺活量の差をいう。これは限界まで呼吸しても肺から出切らない気体の量で、ダイバーにとって非常に重要なものである。

（７）ダイバーの受ける圧力は、水圧１０ｍごとに１気圧ずつ増す。ダイバーは水圧と大気圧を同時に受ける。

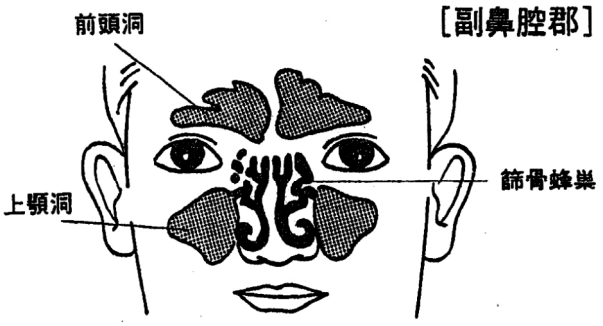
（８）肺の破裂｛空気塞栓症（エアーエンボリズム)｝について

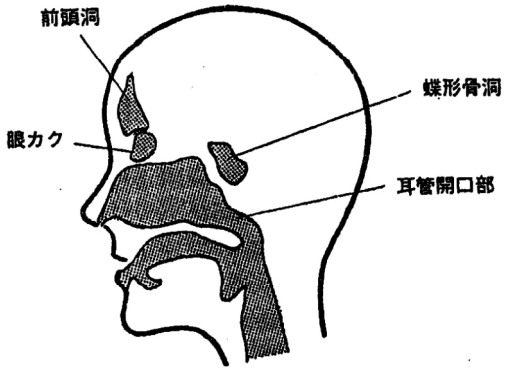
　ダイビング中に息を止めて浮上すると肺内の空気は膨張し、ついには肺胞が破れてしまう。そして空気は破裂した毛細血管から血液に流れ込み、この気泡が血液を止め、人を窒息状態にしてしまうこと。

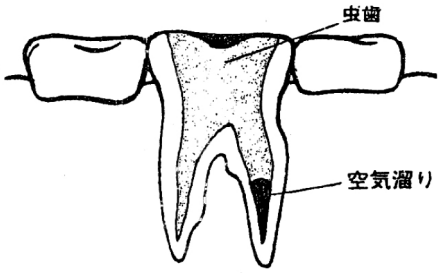
（９）参考文献

ア　舵社発行「目で見る潜水入門」

イ　他社発行のダイビングマニュアルなど







虫歯の治療後の空間